消化器検診 Newsletter

No. 90

［日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会機関紙］

発　行　所：日本消化器がん検診学会
関東甲信越地方会
〒112-0014 東京都文京区関口 1-14-7
和田文栄ビル 2 階
TEL ／ 03-3267-0678
FAX ／ 03-3235-7647
E-Mail:kantou@jsgcs.or.jp

日本消化器がん検診学会（本学会）と関東甲信越地方会（支部）

ちば県民保健予防財団 総合健診センター　林　學

昭和37年に「胃癌研究連絡会」から「胃集団検診学会」が発足しましたが、昭和40年代になり、学会は全国を6支部に分けて（当初関東甲信越・東海北陸を1支部としたようです）地方会（学術集会）の開催を促し、昭和45年に東北支部が第1回例会という名称で開催したのが嚆矢とされています。

第1回関東甲信越地方会は、昭和46年2月5日に市川平三郎世話人代表のもと開催されました。当時の日本胃集団検診学会有賀理事長の講演に始まり、12題の一般演題発表が活発な質疑応答のもと行なわれた、という記録が残ります。その年の9月3日、同じく市川世話人代表のもとに、第2回地方会が開催され、同時に設立集会を開催して正式に関東甲信越地方会が発足した、ということであります。翌昭和47年2月18日に第3回地方会が癌研健診センター所長渕上在彌会長のもと開催され、このときに放射線技師委員会、保健婦委員会を設け、それぞれの立場から胃集検に関する分科会活動を行なう、ということが公表され、次いで開催された9月8日の第4回地方会で放射線部会と保健婦部会の設立および現状がそれぞれの部会代表より紹介されたとあります。このような活動は、当時本学会からも注目されていたことが、学会誌からも窺えます。

それ以降、市川代表はじめとする気鋭の方々の思いと、地方会という本学会に比べ、いわゆる小回りのきく集団の利を生かし、胃がん検診の精度管理をはじめ、本学会に先駆けての研究班活動などを、40年に亘り繰り広げてきた経緯は皆様の知るところであります。また財政面でも独立し、全国他支部に比べ高額の会費負担をしていただきながら運営してきたところです。

ところで数年来、日本消化器がん検診学会（本学会）と関東甲信越地方会（支部）との関係について取りざたされることが多くなりました。

これは新しい法人制度改革法の関係から、本学会が新制度による法人化を図ることとなり、定款の見直しが始まったことがきっかけといえましょう。

従来、関東甲信越を除く6支部はそれぞれに支部を名乗り、○○支部という名称で活動をしてきています。ご存知のように、関東甲信越支部は関東甲信越地方会という名称で、先に書きましたように昭和46年9月に発足した組織（いわゆる法人格のない社団・みなし法人などともいわれる）でありますが、本学会と同じ名称であり、初期より代表世話人が本学会の関東甲信越支部長として、本学会の支部長会に出席してきた経緯もあり、本学会の支部として活動してきています。地方会の会員も認定技師制度等において見られますように、他の支部とまったく同様の扱いとされていることはご存知の通りです。

また、平成22年度からは、全支部共通の形態での本学会との連結決算がなされています。

特に関心のない方々は、いったい何を言っているのか？と思われるかもしれませんが、関東甲信越地方会には会則があり、この会則には本学会との関係についての項目は見当たりません。しかし実質的に本学会支部として認められ、活動してきたことは上に述べてきた通りです。

今回、本学会が一般社団法人化の道を選んで、ほぼ定款も出来上がっているようですが、この消化器検診Newsletter No86で監事の増田先生が書かれているように、最も大きな変更点は、会員はその名称の如何によらず（正会員、一般会員、準会員などと称する例あり）全員が本学会に属する、ということです。会員の居住地や勤務地の関係で所属する支部が決められ、支部活動をすることになる、という形式が考えられます。この点はもちろん全国各支部共通のことで、当地方会だけのことではありません。

ところで現在、他の地方会はどうかといえば、前に記しましたように関東甲信越以外は○○支部の名称であり、「地方会」と称するものは、いわゆる学術集会のことを指しています。迂闊にも私はこの辺はルーズに扱ってきたのですが、本学会では以前より「地方会」は学術集会を意味するものでありました。

この数年、世話人会の折に問題となった、本学会○○支部という名称に統一するということに関しては増田監事の説明など頂き、反対は特にないことから、本学会の新しい定款を待って、他支部などとも協調することで粛々と移行することを考えていました。

先般の世話人会で平成24年度の学術集会（地方会）の折に新制度に対応すべく、名実ともに学会支部となること（本学会では当初より支部として認めてきていますが）への移行式といったような行事の提案があり、了承されたところです。どのような内容とするか、などこれから検討いたします。

新しい定款上も、従来の地方会（支部）活動に影響のあることは特にないものと示唆されています。まだ不明の部分もあるのですが、最も関心の高い部分は、これまでの地方会会費や賛助費による収入の件ですが、活動の妨げとなるような極端な変化は避けるよう、申し入れを続けてゆく所存です。

本学会の新しい定款に関わる、わが関東甲信越地方会（支部）の当面の対応など記してみました。

目　次

「日本消化器がん検診学会と関東甲信越地方会」林　學 …… 1
リレー随筆「この道 40 年を振り返る」本田　今朝男 …… 3
「トランペットと芝と超音波」上原　信吾 …… 4
施設紹介 …… 5
第 71 回関東甲信越地方会学術集会ご参加への御礼 …… 6
平成 23 年度関東甲信越地方会学術集会 …… 7
常任世話人・世話人会議事録
総会議事録
第 72 回関東甲信越地方会学術集会開催のご案内　第 1 報 …… 10
日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会
超音波部会　超音波スクリーニング研修　講演会 2011 有明 …… 11
ザ・ベストイメージング・コンテスト結果報告 …… 13
平成 24 年度超音波部会セミナー開催のご案内 …… 15
『初心者のための腹部超音波検査実技講習会（第 17 回）』 …… 16
第 14 回超音波部会研修会開催のご案内 …… 18
放射線部会　第 44 回放射線部会学術集会 …… 19
第 34 回消化管造影技術研修会のご案内 …… 21
90 号掲示板 …… 23
編集後記 …… 24

リレー随筆

「この道40年を振り返る」

（財）神奈川県労働衛生福祉協会
本田　今朝男

編集委員の岡田氏と何の話からかリレーエッセイの事になり、アッと思った時には後の祭り。藪蛇だった！文才の無い私に書けと言われてしまいました。事務局からは依頼書が届くし！困ったな～・・　そうだ技師歴40年を振り返ってみよう。

わたくし生国は原発事故で悪名高くなってしまった福島県は郡山市であります。どうして医療の道に進んだか、思い起こせば40数年前保健所で事務をしていた叔父が居りレントゲンの事は聞いたことがあった。その因果か市内のO綜合病院を受験したら合格してしまった。

勤務して1年くらい経った頃、連日夕方になるとW外科医がモルモットを数匹連れて来ては単純写真を撮っていた。先輩技師は赤ちゃんを撮影するようなタイミングで上手にこなしていく。何のためかと聞いてみると消化管の通過状態の研究のようであった。妙に気になり人間の消化管に興味を持ち始めたのがこの頃である。そのうち先輩の助手達が次々に放射線技師に成るべく短大や専門学校に行ってしまった。私も先輩に負けじと奮起した次第であります。

国家試験に受かってほどなく横浜市内のM胃腸病院に就職となった。念願かなって消化管に携われる事となるわけですが、撮影もままならないうちに院内の早朝カンファレンス、早期胃癌研究会に連れて行かれるのは良いが専門用語が全く分からない。

しかし、内視鏡写真や切除標本が見られ、切り開いて触ることもできた。深達度Sともなると進行がんは硬いのである。そして生、半固定、固定のスライド写真を撮り、その場でX線写真と比較できた。のちに症例として研究会にも協力できた。

この頃M病院でも腹部超音波（Bモード）も導入されたが、立体的な解剖が判らず、また現在のように解像力が良く大きなモニターで見られる訳ではなく、眼精疲労で肩凝りの毎日であったが現東京女子医大消化器放射線科教授　唐沢英偉先生が立ち上げた超音波研究会にも欠かさず参加し教えを乞うたものである。10数年後、短期間ではあったが関東中央病院で竹原靖明先生にも指導頂いた。

そんな頃（昭和53年頃）にコニカX-ray研究という雑誌に解析会（東京放射線技師読影研究会）の事が載っており早速連絡、参加した次第である。

この解析会の発足は1973年（昭和48年）、当初は5～6人で始めたようだが読影が中心というよりも日頃出会う現象の科学的解明や学会誌などの論文から追試すべき項目を探し、新しい発見に導こうという考えであったようである。そのうち技師が胃腸の透視・撮影を医師から指示される傾向にも関わらず正しい読影、撮影のテクニックを学ぶ場所がなく、順天堂大学の講堂をお借りし服部胃腸科院長　服部了司先生ご指導の下撮影・読影を中心に定例会を開催、別日を設けて胸部読影、超音波、CT、内視鏡の読み方、撮影法などの基礎講座を開催した。私も主宰者側となって基礎講座の講師を担当させられたものである。

病院では勉強の甲斐あって術前のゾンデを使っての精密検査も1人立ちでき、注腸検査で虫垂粘液腫を発見し、超音波で検査していたのもこの頃であったと思います。

解析会も10数年後会場を慶応がんセンターに移し、名称も東京医療技術研究会と改め30数年続く訳であるが、小さな研究会が沢山誕生したこともあり、6年ほど前に会の役目は完了と考え発展的解消とした。だがゴルフコンペや飲み会は続く！

この30数年ご指導頂いた先生は数知れず、10周年・20周年記念講演では九州がんセンター名誉院長の牛尾恭輔先生に【注腸検査と読影】、会誌100号記念講演では元千葉大学　故窪田博吉先生に、会員が立ち上げた超音波研究会との合同企画ではNPO精度管理機構理事長の細井董三先生に【胃MALT型リンパ腫のX線・内視鏡診断】、竹原靖明先生には【超音波検査に従事する技師に求めるもの】と題し、また、30周年記念講演では細井董三先生に【消化器がんのX線所見の読み方】、竹原靖明先生には【超音波検査の進歩と展望】と題し2度もご教示頂いた。改めて御礼申し上げる次第です。

2～30年前と現在との違いを見ると、当時の会員の大部分は20～30代の中小病院勤務、切除標本を扱っている会員も多く症例はたくさん集まった。胃形はほとんどが釣状胃、普通胃が多く前壁撮影も然程苦労しなかったように思われた。装置はアンダーチューブが圧倒的で、また写真の良し悪しは現像してみないと分からなかった。

造影剤については現在のように良質の高濃度Baは無く、付着が悪く各種製品を混合し工夫をこらしていたことが思い出される。

現在では新・X線撮影法ガイドラインも出され撮影法・診断能は格段に向上したが、曝状胃、横胃が多くなり前壁撮影に苦労している毎日ではないでしょうか。

「トランペットと芝と超音波」

JA長野厚生連　佐久総合病院
上原　信吾

私の勤めている佐久総合病院は、長野県の千曲川沿いの比較的静かな地域にある病院です。合併により市に格上げされましたが、合併前は星の町と謳っているだけあり星のよく見える静かな町です。市になってもそこは変わらず、自転車での帰り道とても星が綺麗に見えます。また、タヌキやキツネを見かけることもよくあります。

病院は、とても変わっていて労働組合の活動の中に野球部、卓球部、応援団、吹奏楽団、ビッグバンド、コーラス部、茶道、華道等この場では紹介しきれない程の活動があります。私も就職して13年になりますが、就職と同時に上司の強制的な勧誘もあり吹奏楽団とビッグバンドに入りトランペットを始めました。メンバーは、病院なので医師、看護師、薬剤師、検査技師、ME、OT、放射線技師、事務職など多職種です。自分の結婚式ではソロを吹くという決まりがあり、緊張しましたが思い出に残る楽しい結婚式になりました。最近では練習中よりも練習後の飲み会で元気に活動し、ビールのため超音波のモデルには、不向きな体系になりつつあります。しかし、それと引き換えにわきあいあいと仕事&活動をしています。それと、トランペットの姿勢は肩の力を抜いてリラックスし前をしっかりと向きます。どこか超音波と似ているように思いますが、その甲斐あって姿勢だけは上級者に見えるといわれています。

今、そんな佐久の地に家を建てて住み始めました。小さな庭があるのですが、芝庭に憧れていましたので芝を植えました。先輩には「芝は雑草が大変で綺麗なのは2～3年だぞ」と言われましたが、そこは譲れませんでした。初めは義務的にしていた雑草取りですが、だんだん超音波のスクリーニングと同じ感覚になって楽しくなってきました。肝臓（芝）の中の腫瘤性病変（雑草）を見つけているようで、小さなクローバやタンポポ（クローバーとタンポポは厄介なのです）を見つけると小さなHCCを見つけた時のような気持ちになって芝の健康を守っていると実感しています。しかし見落としをすると種を付け、何度も同じ場所に再発するようになり、その部分は定期検査し再発がないか、何処かに転移していないかを細目に見ないといけなくなります。除草剤を使うようにはなりたくないので早期発見・早期治療が大切なのだと実感しています。芝を植えて5年目となる現在でも、ほとんど雑草のない庭です。超音波を始めたころ先輩に「超音波は車の運転と同じだ」といわれましたが、毎日自転車で通勤してあまり車に乗らない私にはピンときませんでした。同僚は誰も共感してくれませんが、私としては「超音波は芝の雑草取りに似ている」と思っています。

トランペットも雑草取りも超音波に通ずる所があります。これからも、ビール控えめでトランペットに芝の雑草取りをしながら超音波の技術を磨きたいと思います。

施設紹介

「独立行政法人　国立がん研究センター中央病院；National Cancer Center」

＜理　念＞

1. 世界最高の医療と研究を行う
2. 患者目線で政策立案を行う

All Activities for Cancer Patients　職員の全ての活動はがん患者の為に！

＜国立がん研究センターシンボルマーク＞

（1）臨床　（2）研究　（3）教育

国立がん研究センターのシンボルマークの 3 つの輪は、「（1）世界最高の医療と研究を行う（2）患者目線で政策立案を行う」という理念に基づき、（1）臨床　（2）研究　（3）教育をあらわしています。外側の大きな輪は患者･国民の協力を意味します（2010 年）（4）外側の大きな輪は患者･国民の協力

＜基本方針＞

1. 患者さんの権利を尊重し、最善のがん医療を実践する
2. がん克服に向けて新しい医療の研究開発と普及を行う
3. 教育、研修を通じてがんの最新医療の普及に努める
4. がんに関する医療情報を国内外に向けて積極的に提供する

＜組織＞

中央病院（中央区築地）／東病院（柏市）／
がん予防・検診研究センター（中央区築地）
臨床開発センター／研究所／がん対策情報センター

＜沿革＞

1963 年 2 月 1 日　東京都中央区築地に国立がんセンター設立
1992 年 7 月 1 日　旧国立柏病院と旧国立療養所松戸病院を統廃合し柏キャンパスに東病院を開設、築地キャンパスの病院が中央病院となる
1993 年　柏キャンパスに研究所支所開設（現・臨床開発センター）
1999 年　中央病院に新棟完成
2005 年　臨床開発センター発足（柏キャンパス）
2006 年　がん対策情報センター発足
2010 年 4 年 1 日　独立行政法人国立がん研究センターとなる

中央病院（築地）

東病院（柏）

＜施設紹介＞

2010 年 4 月より厚生労働省所轄の施設機関であった「国立がんセンター」は独立行政法人へ移行し、それに伴い名称も「独立行政法人国立がん研究センター」と変わりました。

国立がん研究センターは、初代理事長嘉山孝正のもと、日本におけるがん征圧の中核拠点として、がんその他の悪性新生物に対する診療、研究、技術開発、治験、調査、政策提言、人材育成、情報提供を行っています。

3 月 11 日の東日本大震災時には宮城県への医療支援や福島県へのスクリーニング支援、必要な治療を受けられない被災地のがん患者の方々の積極的な受け入れを行って参りました。

また、9 月 15 日より、がんに関する情報について知りたい方や相談したい方を支援していくことを目的とした、「国立がん研究センター患者必携サポートセンター」を開設することになりました。

国立がん研究センターは、「がん難民をつくらない」という新たな使命を定め、「職員の全ての活動はがん患者の為に！」という新標語のもと、新たな取り組みを開始しております。

第 71 回関東甲信越地方会学術集会を開催して

長野県立須坂病院　内視鏡センター　赤松泰次

本年 9 月 10 日に長野市にある JA ビルアクティーホールにおいて、第 71 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会を開催致しました。今回の学会の企画や運営においては、プログラム委員の先生方のさまざまなご指導やご協力を賜りました。学会当日は幸い天候に恵まれましたが、残暑きびしい中 300 余名のご参加を頂き、まことにありがとうございました。

今回の学術集会は「消化器がん検診を見直す」という、やや挑戦的なテーマを選びました。ご存知のように、現在日本人の死因の第 1 位を占めるのが悪性新生物であり、厚生労働省はがん検診受診率を 50%以上に引き上げるべく、がん対策を推進しています。消化器がん検診はその中で中心的な位置を占め、本学会の存在意義はきわめて重要と考えられます。シンポジウム 1 では「胃検診の近未来像を考える」というタイトルで、X 線検診と内視鏡検診の立場から 4 人の演者が講演と討論を行い、間接 X 線検査を逐年で行ってきた従来の方法から、胃癌のリスク別に検診間隔や検査法を決めるという合理的な方法を今後取り入れていくべきであるというほぼ一致した見解が示されました。樋渡信夫先生の基調講演「大腸がん検診―問題点の解決に向けて」の後、シンポジウム 2 では「大腸検診の現状と問題点」のタイトルで、医師、保健師、検診機関、行政の立場から 4 人の演者が講演と討論を行い、それぞれの立場における現状と問題点が浮き彫りになりました。特に要精検者の受診率が 60%台にとどまる現状を打開するためには、今後どのような方法で受診勧奨を行うべきかが、大きな問題点として取り上げられました。一般演題の応募がやや少なかったのが残念でしたが、ABC 検診の導入や検診で発見されたまれな症例の報告など、いずれも興味深い内容の発表でした。また、会長講演として「ピロリ菌感染症スクリーニング検査の学校検診への導入」という題で、胃癌の一次予防を目的とした高校生に対するピロリ菌検診の成績について報告させて頂きました。

また、同時に開催した放射線部会、超音波部会、保健衛生部会、ランチョンセミナーにおいても、遠方よりお越し頂いた著名な講師による有益な講演と、出席者の活発な討議が行われました。

最後に、長野県健康づくり事業団のスタッフをはじめ、長野県内の多くの方々の献身的なご協力とご支援に対し、この紙上を借りて厚く御礼申し上げます。

消化管の診断に

処方せん医薬品
X線造影剤〈硫酸バリウム製剤〉

◇パウダー製剤
硫酸バリウム酸 99.1%「共成」
ネオバルギンEHD
ネオバルギンUHD
ネオバルギンHD
バリトップHD
バリブライトP
バリブライトCL
バリコンクMX
バリブライトLV

◇ゾル製剤
バムスターS200
バリトップ120
バリトップゾル150
バリブライトゾル180

効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については
添付文書をご参照ください。
※注意―医師等の処方せんにより使用すること

発売元
株式会社カイゲン
大阪市中央区道修町2-5-14〔資料請求先 新薬本部〕
http://www.kaigen.co.jp

平成 23 年度 関東甲信越地方会学術集会常任世話人・世話人会　議事録

日　　時：平成 23 年 9 月 10 日（土）午後 12 時 00 分～ 13 時 00 分
会　　場：JA 長野県ビル　アクティホール 2 階会議室
出席者数：出席 28 名、委任状による出席 46 名、合計 74 名
（会則第 16 条により、現在数 92 名の過半数以上）
議　　題：1. 平成 22 年度決算報告及び活動報告
2. 平成 23 年度事務局及び各部予算（案）
3. 平成 23 年度各部会活動（案）
① 放射線部会　② 超音波部会　③ 保健衛生部会
4. 第 72 回地方会（平成 24 年度）の開催準備報告
5. 第 73 回地方会（平成 25 年度）の開催について
6. 各委員会の活動について
① 企画調整委員会
7. その他

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会林學代表世話人より第 71 回地方会学術集会会長の赤松先生に謝辞を述べた後、会則第 16 条による定足数が満たされていることを確認し、林學代表世話人が議長となり、開会を宣した。

続いて、議事録署名人に赤松泰次、小川敬子両常任世話人を指名のうえ、議案の審議に入った。

1. 平成 22 年度決算報告及び活動報告

林議長より、平成 22 年度決算より日本消化器がん検診学会本部と連結決算となる説明がなされ、平成 22 年度決算報告として各勘定科目の金額について審議がなされたが大きな問題はなく、承認された。

次に各部会より平成 22 年度活動報告がなされた。最初に放射線部会木村代表により、世話人会、組織運営委員会、学術運営委員会、表彰委員会、広報活動委員会について活動報告がなされ、いずれも盛況のうちに終了した事が報告された。続いて超音波部会鳥海事務局長より、総会、研修会、セミナー、超音波スクリーニング実技講習会の活動報告がなされ、いずれも盛況のうちに終了した事が報告された。最後に保健衛生部会小川代表より第 70 回地方会学術集会の活動が盛況のうちに終了した報告と、検診実施主体で使用できる安全管理マニュアル作成活動の進捗状況が報告された。

2. 平成 23 年度事務局及び各部予算（案）

林議長より、今年度予算（案）は先の大地震の影響で、3 月開催の常任世話人会では書面審査にて承認をされている報告がなされた。続いて平成 23 年度予算（案）の報告がされ、各勘定科目の予算金額について説明後、審議がなされたが大きな問題はなく、承認された。

3. 平成 23 年度各部会活動（案）

各部会より平成 23 年度活動（案）報告がなされた。最初に放射線部会木村代表より、レベルアップセミナーの開催、7 支部統一の強化、造影技術研修会の開催及び精度向上について活動報告がなされた。次に超音波部会鳥海事務局長より、総会、研修会、セミナー、超音波スクリーニング実技講習会の更

なる参加者増加に向けての活動報告がなされた。最後に保健衛生部会小川代表より、第 71 回地方会学術集会活動、地方会認定の胃がん検診安全管理マニュアル作成への協力、講習会、保健衛生部会の充実を目指す活動報告がなされた。

4. 第 72 回地方会（平成 24 年度）の開催準備報告

第 72 回地方会学術集会会長、中島美智子先生より第 72 回地方会学術集会開催準備報告と挨拶があった。

開催日：平成 24 年 9 月 8 日（土）
会場：大宮ソニックシティ
テーマ：より高い信頼と安心を目指して

5. 第 73 回地方会（平成 25 年度）の開催について

林議長より、茨城県で開催される予定の第 73 回地方会学術集会が、会長都合にて現在ペンディング中である報告がなされたが、早急に対応していくと報告がされた。

6. 各委員会の活動について

企画調整委員会石川委員長より、企画調整委員会の改善について、地方会活性化に向け財務・運営、将来構想小委員会についての報告がなされた。

また林議長より、将来構想小委員会にて検討する予定として、支部化移行に向けた行事を平成 24 年度第 72 回地方会学術集会において開催する提案がなされ、承認された。

7. その他

林議長より、世話人・常任世話人の報告がなされた。

・超音波部会より、超音波部会　鳥海修事務局長を地方会新常任世話人へ推薦がなされ承認された。
・世話人退任　萩原　常夫　氏
・常任世話人退任　土井　偉誉　氏

また放射線部会の藤田監事より、地方会事務所の会議室利用についての改善、今後の決算に向けての財務の整備、支部化に向けての準備の問題が報告され、林議長より今後の課題として本部の意向も聞きながら対応していくとの説明がなされた。

また放射線部会の小野寺会計担当より、会計処理についての問題点が報告され、林議長より本部、会計事務所と相談できるよう対応していくとの説明がなされた。

以上をもって、予定の議事を終了し、平成 23 年度日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会常任世話人・世話人会を閉会した。

平成 23 年 9 月 10 日

平成 23 年度日本消化器がん検診学会　関東甲信越地方会学術集会　常任世話人・世話人会

議　　長　林　　學　㊞

議事録署名人　小川　敬子　㊞

議事録署名人　赤松　泰次　㊞

平成 23 年度 関東甲信越地方会学術集会総会　議事録

日　　時：平成 23 年 9 月 10 日（土）午後 13 時 00 分～ 13 時 20 分
会　　場：JA 長野県ビル　アクティホール
議　　題：1. 平成 22 年度決算報告及び活動報告
2. 平成 23 年度事務局及び各部予算（案）
3. 平成 23 年度各部会活動（案）
4. 第 72 回地方会（平成 24 年度）の開催準備報告
5. 第 73 回地方会（平成 25 年度）の開催について
6. 各委員会の活動について
7. その他

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会林學代表世話人の挨拶の後、林學代表世話人が議長となり、開会を宣した。

1. 平成 22 年度決算報告及び活動報告
林議長より、平成 22 年度決算報告がなされ、承認された。

2. 平成 23 年度事務局及び各部予算（案）
林議長より、平成 23 年度予算（案）報告がなされ、承認された。

3. 平成 23 年度各部会活動（案）
林議長より、平成 23 年度各部活動（案）報告がなされた。

4. 第 72 回地方会（平成 24 年度）の開催準備報告
林議長より、第 72 回地方会（平成 24 年度）の開催と、支部化移行に向けた行事を開催する報告がなされた。
開催日：平成 24 年 9 月 8 日（土）　会場：大宮ソニックシティ

5. 第 73 回地方会（平成 25 年度）の開催について
林議長より、第 73 回地方会（平成 25 年度）の開催報告がなされた。

6. 各委員会の活動について
林議長より、各委員会の活動について報告がなされた。

7. その他
林議長より、世話人・常任世話人会での報告がなされた。

以上をもって、予定の議事を終了し、平成 23 年度日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集総会を閉会した。

平成 23 年 9 月 10 日

平成 23 年度日本消化器がん検診学会　関東甲信越地方会学術集会　総会
議　　長　林　　學　㊞
議事録署名人　小川　敬子　㊞
議事録署名人　赤松　泰次　㊞

第 72 回関東甲信越地方会学術集会

会　長：中島　美智子（埼玉医科大学総合診療内科）

日　程：平成 24 年 9 月 8 日（土）

時　間：9：00 ～ 17：05

会　場：大宮ソニックシティ

〒 330 － 0854　埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1 丁目 7 － 5

TEL 048 － 647 － 2201

参加費：3,000 円

～ テーマ　より高い信頼と安心をめざして ～

第 72 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会を上記の通り開催致します。

消化器がんをより多く早期に拾い上げていくためには、まず受診していただかなければ始まりません。それには職種を問わず技術、資質を向上させるとともに十分な精度管理により高い信頼を得ることが大切です。また、リピーターを増やし逐年にわたる健康管理を行っていく上で安心して受けられる機関であることも重要です。これらを踏まえて今回のテーマを選びました。放射線部会、超音波部会、保健衛生部会それぞれが抱えている問題を解決すべく議論して頂くと同時に、安心→安全といった面から高齢者や何らかのハンディキャップを持っているクライアントに対して、いかに対処していくかという各部会共通の問題について、横断的な討論を進めていきたいと思っています。

大宮駅は交通の要所として知られていますが、会場は駅西口から歩行者デッキで直結しており徒歩 3 分と大変便利です。より多くの皆様方のご参加と、多数のご研究発表のご応募をお願い申しあげます。

なお、募集要項等の詳細につきましては関東甲信越支部のホームページに掲載予定です。

事務局：連絡先
埼玉医科大学健康管理センター
〒 350 － 0495　埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38
TEL　049 － 276 － 1550　FAX　049 － 276 － 1679
担当　足立雅樹、清水正雄
Email:endai@saitama-med.ac.jp　michina@saitama-med.ac.jp（中島）

“超音波スクリーニング研修講演会 2011 有明”開催のご案内

特定非営利活動法人 超音波スクリーニングネットワーク
理事長　竹原　靖明

下記の要項にて、超音波スクリーニング研修講演会 2011 有明を開催いたします。

本研修講演会は超音波スクリーニングに直接携わる技師の教育・育成を目的に、特定非営利活動法人超音波スクリーニングネットワークが主催し、日本消化器がん検診学会と日本総合健診医学会の共催により、平成 13 年に発足し、毎年継続して開催している講演会で、今回で 11 回目になります。この研修講演会は、超音波スクリーニングの精度向上に必要な基礎および臨床的知識を広く網羅したもので、対象臓器は肝臓、胆道、膵臓、脾臓、腎臓などの上腹部臓器に加え、消化管、乳腺を企画致しました。講師陣には現在、超音波医学の第一線で活躍されているトップレベルの先生方を招聘しております。必ずや、参加者のご期待にそえるものと確信しております。

謹白

記

日　時：平成 23 年 12 月 17 日（土）　午前 9 時 25 分～午後 5 時 00 分
＊開場・受付開始：8 時 30 分から

会　場：TOC 有明　4 階　コンベンションホール（EAST ホール）
東京都江東区有明 3 - 5 - 7
＊埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より徒歩 3 分
＊ゆりかもめ『交際展示場正面』『有明』駅より徒歩 4 分

参加費：4,000 円（資料代含む）　事前登録不要

主　催：特定非営利活動法人　超音波スクリーニングネットワーク
理事長：竹原　靖明（横浜総合健診センター）

共　催：日本消化器がん検診学会／日本総合健診医学会

後　援：日本臨床検査技師会／東京都臨床検査技師会／神奈川県臨床衛生検査技師会
日本放射線技師会／東京都放射線技師会／神奈川県放射線技師会

問合せ：関東中央病院 画像診断センター　（担当：山田）
E-mail　kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com

プログラム　テーマ：『US スクリーニングのポイント』

09：25　開会の辞　竹原　靖明

09：30 ～ 10：20　『胆道』
講師：岡庭　信司（飯田市立病院）　司会：若杉　聡（亀田総合病院）

10：30 ～ 11：20　『乳腺』
講師：橋本　秀行（ちば県民保健予防財団）　司会：髙田　悦雄（獨協医科大学病院）

11：30 ～ 12：20　『腎・膀胱』
講師：桑島　章（PL 東京健康管理センター）　司会：関口　隆三（栃木県立がんセンター）

12：45 ～ 13：35　ランチョンセミナー『消化管』
講師：松原　馨（東京慈恵会医科大学附属第三病院）　司会：小島　正久（公立学校共済組合関東中央病院）

14：00 ～ 14：50　『超音波スクリーナーに求めるもの』
講師：真口　宏介（手稲渓仁会病院）　司会：竹原　靖明（横浜総合健診センター）

15：00 ～ 15：50　『肝臓』
講師：小川　眞広（駿河台日本大学病院）　司会：小野　良樹（東京都予防医学協会）

16：00 ～ 16：50　『膵臓』
講師：森　秀明（杏林大学医学部付属病院）　司会：依田　芳起（山梨県厚生連健康管理センター）

16：50　閉会の辞　髙田　悦雄

*超音波検査士更新 5 点が付与されます。
*会場内での録画・録音は禁止致します。
*ランチョンセミナーで軽食（700 食限定）の用意をしています。（受付時整理券をお渡しします。）
*書籍の展示販売を行います。

*埼京線・りんかい線『国際展示場』駅より徒歩 3 分
*ゆりかもめ『国際展示場正面』『有明』駅より徒歩 4 分

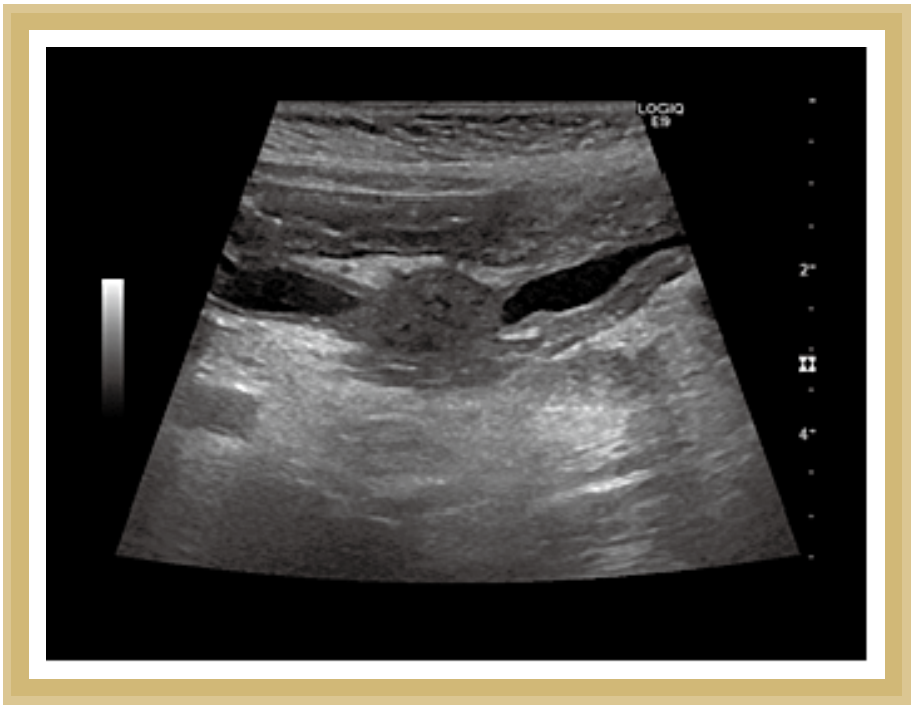
2011年 第4回 ザ・ベストイメージングコンテスト 結果報告

平成 23 年 9 月 10 日、第 71 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会の第 13 回超音波部会学術集会において、第 4 回ザ・ベストイメージングコンテストが開催されました。皆様のご協力をいただき本年は 35 点の応募作品がありました。この中から学術集会参加者の投票により、最優秀賞 1 点と昨年と同様 2 点の特別賞が決定しました。また今回は、超音波部会当番世話人の岡庭信司先生と教育講演をお願いいたしました西田睦先生より独自に選考していただき、それぞれの賞を設けていただきましたので、受賞作品を多く出すことができました。応募して頂きました皆様および当日審査に参加して頂きました皆様に御礼申し上げます。

今回も受賞した作品も含めいずれも甲乙つけがたい素晴らしい症例でしたが、近年の傾向として、消化管超音波検査の普及と超音波装置向上により消化管症例が多く、上級機を使った病院での症例が多く応募されるようになってきています、時間制限のある検診スクリーニング場でも貴重な症例はたくさん発見されていると思います。検診業務に従事している皆様からも多くの応募をお待ちしておりますので、次回に向けて症例を集めておいてください。

横浜総合健診センター　中村　稔
早期胃癌健診協会　山本　美穂

最優秀賞

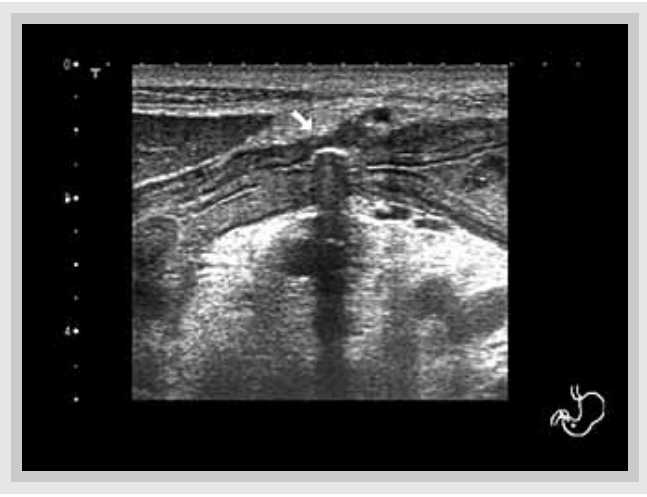


記録者：塩澤　克彦
所　属：日本大学駿河台病院
装　置：GE ヘルスケア LOGIQ E9
周波数：9.0 MHz
症　例：総胆管腫瘍

記録者コメント

閉塞部の腫瘍とその上部・下部の胆管が綺麗に描出出来ました。

特別賞



記録者：滝内　直二
所　属：東京臨海病院
装　置：東芝 Aplio XV　　周波数：7.5 MHz
症　例：胃潰瘍

記録者：岩下　和広
所　属：飯田市立病院
装　置：東芝 Aplio XV　　周波数：8.0 MHz
症　例：胃粘膜下腫瘍

岡庭賞

記録者：竹下　彰
所　属：横浜総合健診センター
装　置：東芝 Xario XG　　周波数：3.5 MHz
症　例：膵管癌

西田賞

記録者：滝口　好子
所　属：日本大学駿河台病院
装　置：GE ヘルスケア LOGIQ E9　周波数：9.0 MHz
症　例：C 型肝硬変症、肝細胞癌

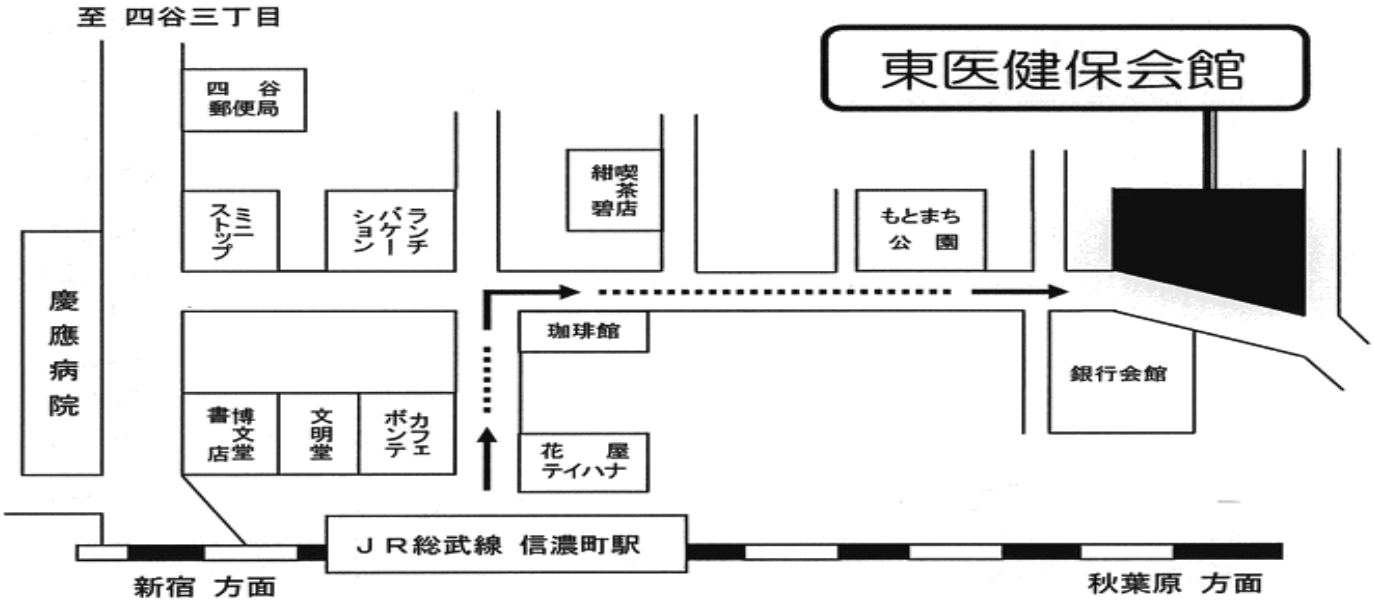
関東甲信越地方会 平成 24 年度超音波部会セミナーのご案内

日　時：平成 24 年 4 月 21 日（土）午後 1 時～ 4 時 30 分（受付開始 12 時 30 分）
会　場：東医健保会館 大ホール　東京都新宿区南元町 4 番地
会　費：2,000 円（非会員 3,000 円）＊事前登録不要

この研修会は、社団法人日本超音波医学会認定「超音波検査士」資格更新指定の対象になっており、出席 5 単位が付与されます。

プログラム

13：00 ～ 13：05	開会の辞（代表世話人）
13：05 ～ 13：55	教育講演 1
13：55 ～ 14：45	教育講演 2
14：45 ～ 15：00	休憩
15：00 ～ 15：10	第 14 回超音波部会総会
15：10 ～ 16：30	症例検討会（スクリーニング発見　3 症例）
16：30	閉会の辞（研修委員長）



＊徒歩順路（JR 総武線　信濃町駅　徒歩 5 分）
信濃町駅の改札を出て、券売機に沿って右方向へ出ると、右手に「花屋テイハナ」がある。
その道の一つ目の角を右へ曲がり、「もとまち公園」を過ぎると、左手に【東医健保会館】の看板が見える。

プログラムの詳細が決まり次第ホームページに掲載致します
会員の皆様のご参加をお待ちいたします
問合せ先：関東中央病院画像診断科　E-mail: kensa.gazou@kanto-ctr-hsp.com
ホームページ URL：http://www.mskanus.org/

関東甲信越地方会超音波部会
『初心者のための腹部超音波検査実技講習会（第 17 回）』
（グループ制技術実技指導）

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会
超音波部会　代表世話人　依田　芳起
研修委員長　中島　美智子

下記の通り「初心者のための腹部超音波実技講習会」を実施いたします。
当日は小人数グループ制で、実際にプローブを握り技術を習得していただきます。
超音波検査をやりはじめの方、これから超音波検査を行いたい方を対象とした講習会です。
受講ご希望の方は、下記によりお申し込み下さい。

記

日　　時：平成 24 年 2 月 18 日（土）午前 9：00 ～午後 4：30（受付 8：30 から）
会　　場：公立学校共済組合　関東中央病院　2 階講堂
東京都世田谷区上用賀 6-25-1
＊小田急線成城学園駅（南口）より渋谷行きバス関東中央病院前下車
＊田園都市線（新玉川線）用賀駅よりバス①番乗り場 関東中央病院下車
＊用賀駅よりタクシーで一区間
募 集 数：20 名（1 グループ 5 名以内）　＊定員になり次第締め切ります。
参 加 費：部会員：1 万 5 千円　非会員：2 万円　＊いずれも昼食。テキスト代含む
申込期間：平成 24 年 1 月 4 日～ 1 月 27 日　＊期日厳守でお願いします
申込手続：必要事項
＊連絡先住所・氏名・性別・年齢・電話（FAX）・勤務先・職種・会員 No. を記入し、
郵送またはメールで下記までお申し込み下さい。
＊受講可否確認書は 2 月 3 日頃発送予定です。
講習内容：テキストにしたがいグループごとに肝、胆、膵、脾、腎の解剖や描出の基本手技およびポイントを
実際にプローブをにぎり習得していただきます。
主　　催：日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会超音波部会
申 込 先：〒 106-0061
東京都千代田区三崎町 1-3-12
結核予防会第一健康相談所総合健診センター
臨床検査科　假屋博一　　宛
E-mail　kariya@jatahq.org
（電話での問い合わせはご遠慮お願いします）

「初心者のための腹部超音波検査実技講習会」申込書

平成 24 年 1 月　　日

ふりがな	
受講者氏名	男　・　女
	会員№　　非会員
生年月日	昭和　　年　　月　　日生　　歳
連絡先	自宅　・　勤務先　（必ず○印を付けてください）
自宅住所	〒　　－
電話	
勤務先名称	
住所	〒　　－
電話	
職種	臨床検査技師　　診療放射線技師　　看護師　　医師
E-mail	@

※質問及び要望等ありましたらお書きください。

関東甲信越地方会
第 14 回超音波部会研修会（日光セミナー）のご案内

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会
超音波部会　代表世話人　依田　芳起
研修委員長　中島　美智子

下記の通り、第 14 回超音波部会研修会（日光セミナー）を開催いたします。

当研修会は超音波検診担当者の教育、 および指導技師の育成を目的に、超音波検査の原理、超音波画像の意義、超音波検査の対象となる疾患の病理･病態･超音波所見などを研修する一泊二日のセミナーです。受講資格に制限を設けませんが内容は中・上級者向けになります。 詳細プログラムは出来次第、超音波部会ホームページに掲載いたしますので会員の皆様のご参加をお待ちいたします。

この研修会は、社団法人日本超音波医学会認定 「超音波検査士」 資格更新指定の対象になっており、出席 5 単位が付与されます。

記

日　　時：平成 24 年 6 月 23 日（土）・24 日（日）　一泊二日
会　　場：日光東照宮「晃陽苑」　栃木県日光市瀬尾 1640-14
　　＊３～４人の相部屋になります
参 加 費：２万円程度予定
参加資格：当学会に所属している会員の方が対象です
募 集 数：40 名　＊応募多数の場合は抽選になります
　　＊申し込み、手続き等は平成 24 年 5 月初旬を予定しています
主　　催：日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会超音波部会
　　＊ 超音波部会ホームページ　http://www.mskanus.org/
　　＊ プログラムは出来次第にホームページに掲載いたします

関東甲信越地方会 第 44 回放射線部会学術集会

大会長　　滝口　裕

このたび、日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会第 44 回放射線部会学術集会千葉大会の大会長を拝命いたしました滝口裕と申します。この大会は平成 24 年 2 月 4 日に千葉市文化センターにて開催される運びとなりました。消化器検診に携わる診療放射線技師はもちろんのこと多くの医療人のスキルアップ、そして一般市民の健康増進を最終目的としてプログラムを企画いたしましたので、診療放射線技師はもちろんのこと他業種の皆様もお誘いあわせの上ご参加いただければさいわいです。

今学術集会の大きな特色は、官庁指導の下、門戸を広げ文化講演と特別講演を一般公開講演としたことと、多くの他団体とのコラボを実現させたことです。また、メインテーマは「医食同源」とさせていただきましたが、過去のテーマと比較すると不真面目に感じるという諸先輩の声も聴きつつ我儘を通させていただきました。今までにない学会にしようというスローガンのもと、へそ曲がりの私をはじめ、もっとへそ曲がりな実行委員達の熱意も強く、一風変わった学術集会になりそうですが、内容的にはすべてが貴重な講演ばかりであることは確信しております。

同日に隣のビルで開催される「放射線技術学会第 58 回関東部会研究発表大会」との全面的な共同開催は多くの障害のため断念いたしましたが、協議を重ね参加者のためになるよう、機器展示と懇親会は共同開催できることとなり、またお互いの会場へのフリーパス（一部制限あり）も実現したことはまことに喜ばしく思っております。ようするに各会場にて別々に参加券を購入しなくてもよいことになりますので経済的に考えてもお財布に優しいということになります。

また、社団法人千葉県放射線技師会の共催を賜り、日本放射線技師会の後援もいただき物理的経済的な援助は感謝に耐えません。認定技師の件も含め今後は職能団体との協調および他団体との共和は避けて通ることはできないと考えますので、今後の学会開催に当たり一石を投じた形になればうれしく思います。日消研と技術学会と診療放射線技師会が交わった懇親会はどのようなものになるか皆様楽しみにしていてください。

プログラムの内容を簡単に説明いたします。

文化講演 1 の聴覚者協会、植野先生の講演は、最低限知っておきたい手話の講習や耳の不自由な方からの目線にて貴重な体験談も交えたお話をしていただきます。多くの放射線技師はこの分野において非常に立ち遅れており悪く言えば学校教育でも触れられずないがしろにしている諸兄がたくさん存在していることも鑑み企画されたものです。とくに消化器検査は遠隔操作がおもな作業であることから、最低限の手話教育は必須と考えられます。

文化講演 2 は千葉県栄養士会の全面協力のもと、テーマに沿った胃癌と食事の関係を軸として石井先生に講演していただきます。そのほかには、食物の胃の通過時間や消化機能など貴重なデータも発表される予定ですので、消化器検査に関わる皆様には必見と考えます。

文化講演 3 は、NPO 法人がんコントロール協会の森山先生に講演していただきます。著作も多くたくさんのファンを持つ森山先生の講演も医療人には必見です。私もファンの一人として是非拝聴していただきたくお願い申し上げます。拝聴後は皆さまもファンの一人になることは間違いありません。食事とがんの関係やメカニズムも違った視点から考えることは私たちにとって決してマイナスになることはありません。まさに「目からウロコ」となることは保証いたします。

特別講演では皆様ご存知の「鴨川シーワールド」獣医師、勝俣先生の講演です。テレビや雑誌でも取り上げられているので有名で多忙の先生ですが、今大会のコンセプトと実行委員の熱意も伝わりお話をしていただける運びとなりました。シャチやトドを相手にした内視鏡検査の苦労話や海獣の消化器疾患の貴重な講演を期待できます。とにかくお話がおもしろく飽きさせません。

以上が一般公開となりますが会場は 500 人以上収容可能ですのでもれなく着席できると考えております。

午後は会員からの一般演題発表となります。6 演題を予定しております。

教育講演 1 は改めて紹介するまでもない光島徹先生の CTC の講演となります。教育講演 2 はこちらもおなじみの長浜隆司先生の講演となります。貴重なお話を期待できます。教育講演 3 は、千葉県放射線技師会、小原修会長の講演となります。法令グレーゾーンの落とし穴を説明していただきます。先日の千葉での保健所が騒ぎ立てた注腸事件の顛末も含め見逃すことのできない講演です。

以上、簡単ですがプログラムの内容を説明させていただきました。参加費 3000 円、懇親会費 5000 円、で予定しております。実のある学術大会となるよう準備を進めておりますので、多くの方々のご参加をお待ちしております。

記

第 44 回学術集会会長：滝口　裕、 実行委員長：山崎　英孝
会場日時：2012 年（平成 24 年）2 月 4 日土曜日 9：30 ～ 18：00（開場は 9：00）
会　　場：千葉市文化センター 3F アートホール　〒 260-0013 千葉県千葉市中央区中央 2-5-1
参 加 費：3,000 円
懇 親 会：懇親会費：5,000 円（放射線技術学会第 58 回関東部会研究発表大会との合同懇親会）

文化講演 1	9：50 ～ 10：30	「消化管検査における情報保障について」 社会福祉法人　千葉県聴覚障害者協会　**理事長　植野　圭哉** 先生
文化講演 2	10：35 ～ 11：15	「消化器検査（疾患）と食事」 社団法人　千葉県栄養士会　**副会長　石井　國男** 先生
文化講演 3	11：20 ～ 12：20	「食と栄養・ミネラル・ビタミン欠乏症」 NPO 法人がんコントロール協会　**理事長　森山　晃嗣** 先生
ランチョンセミナー	12：25 ～ 13：05	「演題未定」 株式会社　AZE
特別講演	13：10 ～ 14：10	「海獣の食事の話　―大食漢は誰だ―」 鴨川シーワールド　**獣医師　勝俣　悦子** 先生
一般演題発表	14：10 ～ 15：10	
教育講演 1	15：10 ～ 16：10	「対策型大腸がん検診における新しい精検法としての CT コロノグラフィー」 医療法人鉄蕉会 幕張事業部長　医療法人鉄蕉会亀田 MTG クリニック　**院長　光島　徹** 先生
教育講演 2	16：10 ～ 17：10	「演題未定」 早期胃癌検診協会中央診療所　**所長　長浜　隆司** 先生
教育講演 3	17：10 ～ 17：40	「演題未定」 社団法人　千葉県放射線技師会　**会長　小原　修** 先生
閉会式	17：40 ～ 18：00	部会報告・記念式典・閉会式

第 34 回 消化管造影技術研修会のご案内

日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会では毎年、消化管造影検査に携わる放射線技師を対象に、消化管造影技術研修会を開催しています。この研修会は、検査中に異常を素早く判断できる知識と、関心部位の適切な表現を可能とする造影技術及び、読影法の習得を目的とし合宿制で実施しています。

各講師陣による内容の深い講義及び持参フイルム検討会と技術指導は毎回多くの受講生より好評を得ております。この機会に是非受講していただけますようご案内申し上げます。

記

[日　　時] 平成 24 年 1 月 27 日（金）～ 29 日（日）　2 泊 3 日
[会　　場] 日本青年館ホテル　〒 160-0013　東京都新宿区霞ヶ丘 7-1　℡ 03-3401-0101
[受講資格] 消化管造影検査に係わりのある方ならどなたでも受講できます。
[受講費用] 日本消化器がん検診学会正会員又は支部会員　50,000 円
非会員　70,000 円
[前日宿泊] 研修日の前日（1 月 26 日）に宿泊希望の方は、前泊費用の 8,000 円を加算して下さい。
[募集人数] 約 80 名

[申込締切]　**平成 23 年 12 月 25 日**

[申込手順]

1. メールにて受講予約をして下さい。予約受付のメールを返信致します。
   （1）宛先　s.kenshuukai34 @ gmail.com（全て半角）
   （2）件名　「第 34 回消化管造影技術研修会受講申込み」
   （3）内容　①氏名　②施設名　③電話番号　を明記してください。
2. 受講費用（および前泊費）を下記口座に振込んで下さい。
   振込み先　みずほ銀行　江戸川橋支店（店番号 545）　口座番号（普）1134339
   口座名　日本消化器がん検診学会　関東甲信越地方会
3. 受講申込書に必要事項を記入し、振込み証明のコピーを添えて下記事務局へ郵送して下さい。
   事務局　　神奈川県労働衛生福祉協会　放射線科　消化管造影技術研修会事務局
   〒 242-0017　神奈川県大和市大和東 3-10-18　Fax046（262）9511
4. 受講申込書受領後、受講案内を発送します。

[主　　催] 日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会
[後　　援] 日本消化器画像診断情報研究会
[問合せ先] E-mail　s.kenshuukai34@gmail.com　　または上記事務局へ Fax でお願いします。

第 34 回 消化管造影技術研修会プログラム（2012.1）

	27 日（金）	28 日（土）	29 日（日）
8：30			
9：00	**受付開始（8：45）** オリエンテーション 福岡良和　9：15 ～	大腸 X 線検査法 講師：腰塚慎二	デジタル撮影装置の保守と管理 講師：埋橋喜次
9：30	胃がん検診専門技師認定と 読影補助について 講師：木村俊雄	胃癌組織発生からみた胃癌の診断 ―胃癌の三角― 講師：中村恭一 先生	デジタル画像の臨床 & 造影剤に求めること 講師：杉野吉則 先生
10：00			
10：30	胃 X 線検査の基礎 I ―基準撮影法について― 講 師：黒木幹夫		
11：00			食道 X 線診断学 講師：八巻悟郎 先生
11：30	胃 X 線検査の基礎 II ―検診の実際― 講師：見本真一	胃癌の X 線診断 I ―症例に学ぶ― 講師：入口陽介 先生	
12：00			講評　持参フィルム総合評価 見本真一・黒木幹夫・植村博次
12：30	昼　　食	昼　　食	昼　　食
13：00			
13：30	胃がん検診における所見用語 講師：高田恵子	胃癌 X 線診断 II ―肉眼・組織所見との対比― 講師：馬場保昌　先生	Ba 検査の危険・ 一般的なリスクについて 講師：佐藤一雄
14：00			
14：30	前壁撮影のテクニック 講師：木村俊雄		胃がん検診における統計の基礎 講師：植村博次
15：00			総括 地方会代表世話人　林　學 先生
15：30	実験 ―硫酸バリウム造影剤の特性― 講師：伏見製薬	胃 X 線画像の読み方と考え方 講師：吉田諭史 先生	閉講式
16：00			
16：30	胃 X 線検査のピットホール ―横胃の撮影法― 講師：工藤　泰	症例検討会 指導：吉田諭史 先生 司会：佐藤清二	
17：00			
17：30	病変描出手技 ―追加撮影のポイント― 講師：本田今朝男		
18：00		交流会 司会：宮田和則	
18：30	夕　　食		
19：00			
19：30	持参フイルム検討会 （間接・直接・DR 別グループ討論） 講師：実行委員		
20：00	個別検討あり（希望者）		
20：30			

※講師の都合により変更になる場合があります。

《90 号掲示板》

第 51 回日本消化器がん検診学会総会のご案内

「消化器がん検診の使命 ～健康への導き～」

会　長：土亀　直俊（ 財団法人熊本県総合保健センター ）
会　期：2012 年 6 月 1 日（金）～ 2 日（土）
会　場：崇城大学市民ホール／熊本市民会館
　　熊本県熊本市桜町 1-3　TEL：096-355-5235
　　熊本市国際交流会館　熊本県熊本市花畑町 4-8　TEL：096-359-2020
　　http://www.c-linkage.co.jp/jsgcs51/index.html

総会事務局：（財）熊本県総合保健センター 内　〒 862-0901　熊本県熊本市東町 4-11-2
　事務局長　村上　晴彦
　TEL：096-365-8800　FAX：096-365-2593　E-mail：ikyoku@kuma-sei.or.jp
運営事務局：〒 812-0016 福岡市博多区博多駅南 1-3-6　第三博多偕成ビル
　株式会社コンベンションリンケージ内
　TEL：092-437-4188　FAX：092-437-4182　E-mail：jsgcs51@c-linkage.co.jp

※第 37 回部会研究会総会は 6 月 2 日（土）13：00 ～ 17：00 に第一会場にて開催されます。

第 20 回日本消化器関連学会週間 Japan Digestive Disease Week 2012（JDDW 2012）

JDDW 2012 は、2012 年 10 月 10 日（水）～ 13 日（土）の 4 日間、神戸市（神戸国際展示場・ポートピアホテル・神戸国際会議場）において開催されます。

会　期：2012 年 10 月 10 日（水）～ 13 日（土）
場　所：神戸国際展示場・ポートピアホテル・神戸国際会議場

第 54 回日本消化器病学会大会	会長　鈴木　一幸（岩手医大・消化器・肝臓病内科）
第 84 回日本消化器内視鏡学会総会	会長　高橋　信一（杏林大・3 内科）
第 16 回日本肝臓学会大会	会長　佐田　通夫（久留米大・消化器内科）
第 10 回日本消化器外科学会大会	会長　山口　明夫（福井大・1 外科）
第 50 回日本消化器がん検診学会大会	会長　田中　幸子（大阪府立成人病センター・検診部）
第 43 回日本消化器呼吸学会総会	会長　白鳥　敬子（東京女子医大・消化器内科）

JDDW2012 に関する問い合わせ先
JDDW 事務局：
〒 104-0061　東京都中央区銀座 8-9-13　K-18 ビル 9F　TEL：03-3573-1254　FAX：03-3573-2198
E-mail：endai2012@jddw.jp（演題に関する内容）　E-mail：kobe2012@jddw.jp（学会に関する内容）

第 38 回部会研究会総会のご案内

会　期：2012 年 10 月 13 日（土）
会　場：大阪千里ライフサイエンス
世話人：田中　幸子

年会費未納の方へお願い　年会費未納の方は、事務処理を行う為至急お振り込みをお願いします。（事務局）

編集後記

本年度より編集委員に加わらせていただいております、ちば県民保健予防財団の山口和也です。東日本大震災で千葉県旭市は津波に襲われ、東京湾側、内陸部でも液状化被害甚大な地域があります。地震、津波、原発事故を日本国は経験し、「健診、検診どころじゃない。」とお思いの国民もいらっしゃると思いますが、我々は新しい今の世界の中で生きていくしかないと思います。第 71 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会が平成 23 年 9 月 10 日、JA 長野県ビルで開催されました。余震や、精神的ショックが続く中多数の会員に御参加いただきました。

本号では巻頭言を、医局の大先輩であり、また学会においても永年に渡り後進の指導にご尽力いただいている林学支部長にお願いいたしました。また、超音波部会と放射線部会からのリレー随筆を JA 長野厚生連佐久総合病院上原信吾先生と神奈川県労働衛生福祉協会本田今朝男先生にお願いいたしました。施設紹介を国立がんセンター北川まゆみ先生にお願いいたしました。他にも、各部会からのお知らせ、第 71 回日本消化器がん検診学会関東甲信越地方会学術集会ご参加への赤松泰次大会長からのお礼、議事録、第 72 回関東甲信越地方会学術集会開催のご案内（中島美智子大会長）と従来通りのニュースレターを発行する運びとなりました。今後より充実した紙面にすべく、新企画を検討中です。

地元の船橋から、総理大臣が誕生しました。復興や、原発対応など難題山積ですが、がん検診のクーポン券等は、行政機関での準備が必要なものがあり、政治が安定し、継続性のある政権運営を期待しています。

関東甲信越支部が発展し、世の中の検診の質が向上していくことが、国民のためとなります。皆様のお役に立てるように、微力ながらも努力してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

■編集委員会■
編集委員長　長浜　隆司
編集委員　岡田　義和　神宮字広明　山本　美穂
小田　丈二　山口　和也
（非売品）

食道から大腸まで　適確診断のために……
薬価基準収載
処方せん医薬品　注意-医師等の処方せんにより使用すること
【硫酸バリウム製剤】
上部消化管X線造影剤
バリテスター® A240散　バリトゲン®SHD
消化管X線造影剤
バリトゲン®HD　バリトゲン®ゾル145
バリトゲン®　バリトゲン®ゾル
バリトゲン®デラックス　ウムブラ®MD
注腸用X線造影剤
エネマスター®注腸散
X線CT用経口消化管造影剤
バリトゲン®CT
【炭酸水素ナトリウム・酒石酸配合剤】
X線診断二重造影用発泡剤
バリエース®発泡顆粒
胃内有泡性粘液除去剤
バリトゲン®消泡内用液2%
（ジメチコン内用液）
緩下剤
ファースルー®錠2.5mg
（ピコスルファートナトリウム錠）
※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等詳細は、添付文書をご参照下さい。
やさしさと温もりをもって届けたい。
FSK 伏見製薬株式会社　●資料請求先 ／ 学術室
〒763-8605　香川県丸亀市中津町1676　TEL 0877-22-7284　FAX 0877-22-6284
仙台営業所／TEL 022-295-5667　東京営業所／TEL 03-5328-7801　名古屋営業所／TEL 052-732-8555
大阪営業所／TEL 06-6160-2431　中四国営業所／TEL 0877-22-7284　福岡営業所／TEL 092-413-4107